

# 営農ウィークリーNEWS

## 久世農業塾の米づくり編を開催！

～根張りを充実させた異常気象対応型稲作を～

農業の基本的知識を習得するとともに農家の緊密な交流を図り和やかな地域をつくることを目的として、久世農業塾が行われています。

昨年9月からスタートし、ナス、キュウリの現場研修をはじめ農薬編、肥料編に引き続いて、今回は米づくり編がさる2月12日に開催されました。



当日は昨年の生育状況を振り返り、2・3等の格付理由の確認を行うとともに、気象災害に負けない米づくりのための栽培技術を学習しました。また、播種、植え付け、分けつ、出穂、登熟、収穫までのイネの一生をクイズ形式で学び、さらなる技術力の向上に努めました。

さらに今年は生育調査田を設置し、そのデータをもとに現場に即した技術支援を行っていきます。



生育データ収集中

### —TAC information—

## 第14回 JAバンク担い手金融リーダー全国大会



平成31年2月13日、14日の2日間、千葉県浦安市舞浜で、第14回JAバンク担い手金融リーダー全国大会が開催され、参加しました。

情勢報告、基調講演の他、部門間連携（TAC）をテーマにグループディスカッションを行いました。

全国の信用担当者との熱い議論を交わし、大変良い刺激になりました！

今後の活動に活かしていきたいと思っております！

# 米づくりに「JA京都中央」のおすすめ肥料



「とれ太郎」 ケイ酸30%、苦土12%、リン酸6%、アルカリ分40%

☆ケイ酸はイネの根の活性を高め、葉の老化を防ぎ、葉を直立させ光合成量を増大させる効果があります。とれ太郎のケイ酸は吸収されやすい形態で、効率よく効きます。アルカリ度が高いので、微生物の活動が活発になり、有機物の分解が進みます。秋～冬期に早めに施用しましょう。10a当たり100kgが目安です。

「けい酸加里」 ケイ酸34%、加里20%、苦土4%、ホウ素0.1%

☆吸収されやすいケイ酸であり、かつ流亡しにくいいため、基肥でも追肥でもどちらでも効果があります。高温障害対策、日照不足対策の場合は、出穂35～45日前に施用します。基肥の場合10a当たり40～60kg、追肥の場合40kg。



「アツミン」 腐植酸 約50%、苦土3%

☆腐植酸とは、土壤中で微生物などを除いた土壤有機物のことで、細根の増加や根張りの充実が図れます。また、マイナス電荷に帯電しているため、プラスに帯電しているカリウム、マグネシウム、アンモニウム態窒素などが保持でき、保肥力の向上が図れます。10a当たり30～40kgが目安です。

「石灰窒素」 窒素成分20%、アルカリ度55%

☆稲ワラの腐熟促進に効果があります。刈り取り後10a当たり10～20kgを施用しすき込みます。石灰窒素に含まれる窒素分と石灰のpH矯正効果により、微生物の活性が高まり、稲株の腐熟が進みます。特に稲株が残って根腐れしやすい水田にお勧めです。



## 腐熟の進んだ良質たい肥



「JA活緑」

☆剪定枝をビール糟等で発酵を促進させた使いやすいたい肥です。土壤の通気性、排水性、保肥力の向上に欠かせない材料です。土壤改良は安定した良品生産を実現します。10a当り100～200袋施用。40ℓ(約15kg)入り。フレコン、バラ売りもあります。